

古橋氏に文化勲章

スポーツ競技者として初

本学名誉教授で日本水泳連盟名誉会長の古橋広之進氏（80歳、1951年法文（現、法）卒）が文化勲章を受章した。競泳の自由形で30以上の世界記録を樹立し敗戦直後の日本人に希望を与えるなど、スポーツ界への長年の貢献が顕彰された。スポーツ競技者の受章は初で、来年創立120周年を迎える本学の歴史に新たな一ページが刻まれた。古橋氏は「日大の一つの宣伝になれば」と受賞の喜びを語った。天皇陛下による親授式は11月3日、皇居で行われた。本学は古橋夫妻を招いて「受賞を祝う会」を12月16日、日本大学会館大講堂で開く。（2面に関連記事）



古橋広之進氏

文化勲章が1937（昭和12）年に制定され

てからの受賞者は346人、今回は古橋氏のほか、小説家の田辺聖子氏（80）、指揮者の小沢征爾氏（73）、ノーベル物理賞を受賞した小林誠氏（64）ら8人に贈られた。古橋氏は28年に静岡県浜松市に生まれ、小学校4年生から浜名湖で水泳を始め、小学校6年生には学童新記録を出し「豆魚雷」と呼ばれ、頭角を現す。本学には45年



に入学。本格的に競泳を始めたのは敗戦後だった。46年、明治と立命館との3大学合同の水泳大会に出場し、四百メートルで優勝。同年、兵庫県宝塚市で行われた第1回国民体育大会でも同種目で優勝した。当時は物資が不足していたため、その日の食料も十分ではななく、泥水を張った防火用水プールで練習していたという。47年の日本選手権では四百メートル自由形を世界新記録で打ちひしがっていた



（上）文化勲章の親授式で天皇陛下から勲章を受ける古橋氏
（下）「フィッシュマン」の愛称で競泳自由形の世界新記録を連発した（いずれも共同通信社提供）

提供：日本大学新聞